

講義名	地域観光政策			授業形態	
担当教員	楠本 寛	開講期・曜日・時限	後期 水曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要

観光に対する社会的な需要は高まっており、観光政策の重要性も高まっている。本講義では、観光政策の歴史や背景を振り返り、近年の観光立国推進や地方創生に至る成長戦略の柱としての観光政策まで現状と課題や、今後の方向性を理解する。このなかで、観光庁のみならず都道府県・市町村など行政が行う観光政策に着目しながら、国と地方自治体の関係性や民間事業者との役割分担など、行政が行う観光政策について、特に地域の魅力を高めるための地方自治体による観光政策推進の意義や最新の動向などについて、具体的な事例も交えて学習する。

到達目標

- (1) 行政の観光政策や計画について、意義や背景、課題や動向について理解することができるようになる。
- (2) 行政の観光政策について、策定の考え方や内容について理解することができるようになる。
- (3) 地域観光政策の目指すものや果たす役割などについて理解することができるようになる。

提出課題

授業内容に関する課題を課す。実施方法（課題提出/授業時間内における演習）はその都度指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

次の授業の際に、全体的な講評や解説を行う。

評価の基準

前半・後半の2回に分けて、授業時間内に確認テストを実施する。確認テストの成績を70点、平常点（課題など）を30点、合計100点満点で評価する。

履修にあたっての注意・助言他

積み上げ型の授業であり、毎回出席することが重要である。授業内容は日常生活に関連するものが多く、課題演習に取組みながらその内容をきちんと理解してもらいたい。そのため、授業への出席と積極的な学習態度を奨励する。定期試験は実施しない。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

授業の際にプリントを配布する。参考文献があれば、授業時間に紹介する。

授業計画

- 1 地域観光政策とは何か、地域観光政策を学ぶ意義
- 2 日本の観光政策（1）
- 3 日本の観光政策（2）
- 4 国内・国際観光の動向
- 5 観光統計
- 6 観光産業
- 7 観光の経済効果
- 8 前半部講義内容の理解度確認課題演習
- 9 観光地づくり・観光まちづくり
- 10 観光とエリアマネジメント、観光とマーケティング
- 11 観光DMOの役割と課題
- 12 地方の観光政策（1）
- 13 地方の観光政策（2）
- 14 観光の新しい動き
- 15 後半部の講義内容の理解度確認課題演習

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業の内容はできる限り授業中に理解することが望ましいが、授業の内容を確実理解を深めることを目的とした課題を課す。このため、授業内容の復習と課題への取組に週2時間程度を充てる必要がある。また地域観光政策について、毎回の講義で学んだ知識をもとに、週2時間程度、関心をもって自分の周りの観光に目を向け、講義内容の理解を深めることを期待する。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本学のディプロマ・ポリシーに記載された「経済学部・経済学科の学生が卒業時に身につけておくべき資質・能力」のうち、次の項目に関連する。人間、社会、自然に関するこれまでの学問的取組の基礎を身に付け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察し、課題を提案することができる。経済学を基礎にして、複雑化する地域社会で生起する問題を読み解き、解決策を提案することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考